

東日本大震災の香港への影響について

～加油（頑張れ）日本！～

香港駐在員事務所

秘書 Hau Siu Yun, June

今年3月11日に発生した東日本大震災は、発生直後から香港でも連日トップニュースとして報道されており、香港の市民は高い関心を寄せています。

経済・観光・文化など様々な面で日本と緊密な関係を持つ香港にとって、今回の震災の衝撃は非常に大きく、その影響は個人の生活からビジネスに至るまで幅広いものとなっています。

ご存知の通り、香港は日本にとって最大の農水産品輸出先であり、日本食人気の非常に高い地域ですが、地震発生直後には、供給不足への懸念を背景として、日本製粉ミルクや日本米が品薄状態となりました。

一方で、原発事故の影響による風評被害により、日本食レストランも敬遠される動きが強まり、特に日本産魚介類をネタに使っている高級寿司店では、「売上が70%以上ダウンした」との声も聞かれるなど、対応に頭を抱えているようです。

香港人の間でトップクラスの人気を誇っていた日本向け旅行についても、震災後キャンセルが相次ぎ、観光業界団体である香港旅行業議会のマイケル・ウー会長は、「日本向け旅行は、パックと個人旅行を合わせて香港の海外旅行市場の2割を占めており、今回の地震によるキャンセル被害額は3,000万香港ドル(約3億1千万円)を超える。」とコメントしました。

今回の震災の香港経済への影響について、香港政府は「測定は困難」としてコメントをしていますが、一部のエコノミストは、今回の震災により域内総生産(GDP)伸び率が0.2%押し下げられるとの予測を示しています。

このように、一時は様々な面で深刻化していた震災の香港への影響ですが、最近になり一部に明るい兆しも見え始めています。

例えば、地震発生直後に渡航の是非検討勧告(福島県のみ自粛勧告)が出され、旅行者が激減していた日本向け旅行ですが、4月から一部の旅行会社が日本向けツアーを再開しており、徐々に旅行者の数は増えるものと思われます。

風評被害に遭っている日本食レストランについては、香港立法会(議会)議員と業界団体が、連携して「愛・日本料理」と銘打った期間限定の割引キャンペーンを行うと発表しており、200店舗以上が参加し、日本料理・食材の安全性を訴えることで、売上が回復するものと期待されています。

被災地の方への支援活動も世界各国で広がっています。ここ香港でも、ジャッキー・チェンさんら映画俳優、歌手など約200人がチャリティーコンサートを開催し、被災地への寄付を呼び掛け、当日集まった義援金は2,500万香港ドル(約2億6千万円)に達しました。

また、売上の一部を寄付する飲食店や、子供達も参加した路上での募金活動など各種チャリティーが活発に行われており、香港人の多くが被災地の一日も早い復興を願っています。



「愛・日本料理」キャンペーン公式ホームページ
(<http://www.lovejapfood.org/web/>)

以上